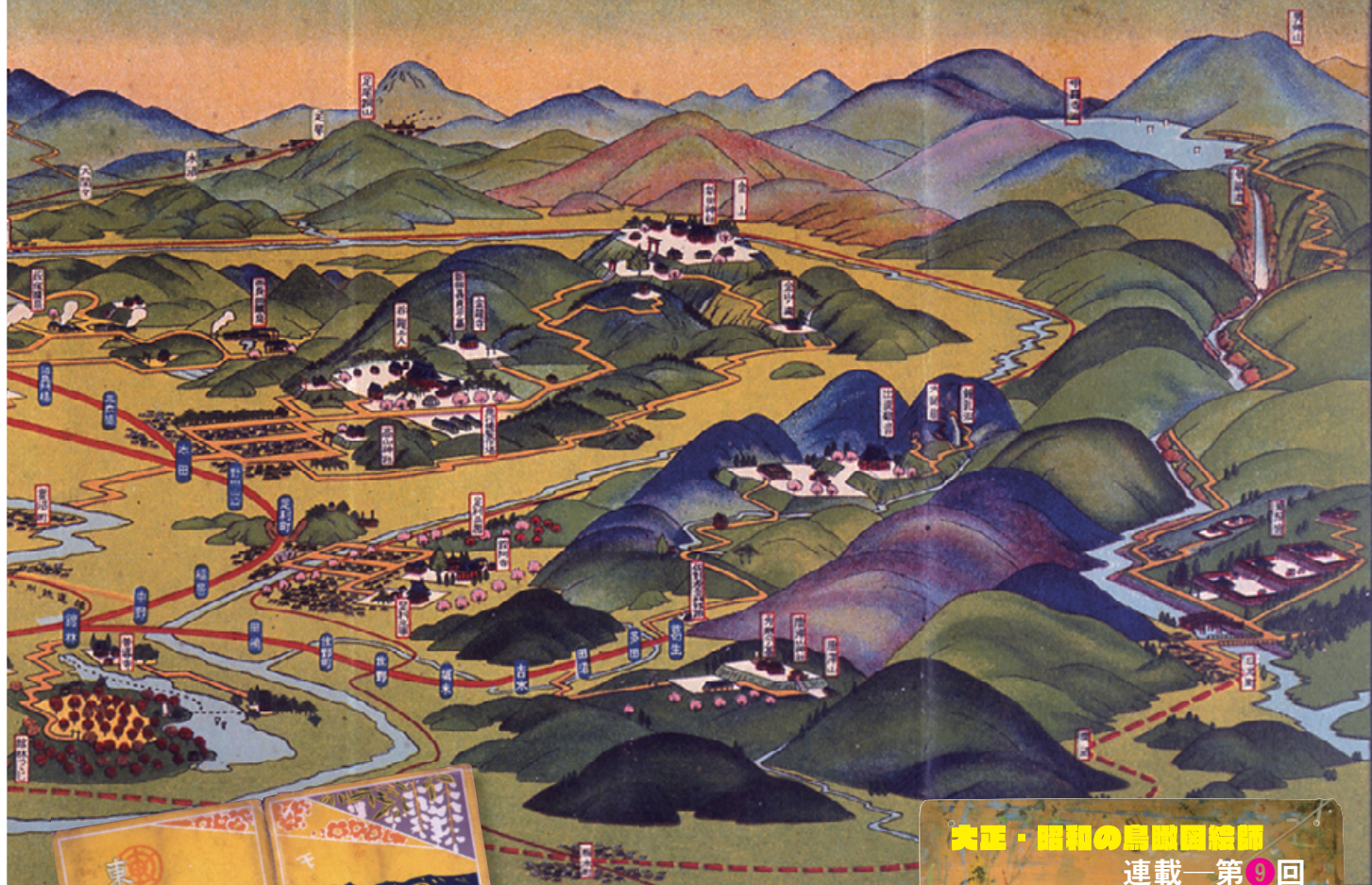




大正・昭和の鳥瞰図絵師
連載—第9回
吉田初三郎の世界



東武鐵道沿線名所圖繪

東武鐵道線路案内

東武鐵道沿線名所図絵

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

初三郎創案の横に長い折り畳み式
鐵道沿線案内名所図絵鳥瞰図の大正
期における代表作のひとつである。

図絵は関東平野を圍繞する富士
山を大きく描き、武甲山の右手奥に
怪巖な岩峰群の妙義山と噴煙の浅間
山、さらに榛名山腹の伊香保温泉の
湯煙や赤城山へと続き、右端に日光
連山の主峰・男体山を配置している。

広々とした平野部には、四方に延
びる赤く太い東武鐵道の路線および
破線の予定線が複雑に拡張している
ので、まず鐵道史に言及してみると、
明治三十年十一月一日設立。二年後
に初路線となる伊勢崎線北千住〜久
喜間開業。四十五年には現在の佐野
線を運営していた佐野鐵道を合併。
大正二年、現・桐生線の太田輕便鉄
道を買収。九年、現・東上線の東上
鐵道と対等合併し、東武鐵道の名で
存続していく大正十四年にこの図絵
作品が刊行されている。

藤本一美

首都大学東京(都立大学)非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学II』(私家版2006年)、
最新刊に『展望の山50選 関東編』(東京新聞出版局)がある。



『東武鉄道線路案内〔東武鉄道沿線名所図絵〕』
 (大正14(1925)年10月7日発行
 京都の大正名所図絵社代表 大瀧新之助発行人
 大正名所図絵社 印刷)
 右頁/日光(下の全体図の右端部分)
 左頁/富士山(下の全体図の左端部分)

東武鉄道株式会社

TOBU RAILWAY CO., LTD.

設立: 明治30(1897)年11月1日
 本社: 東京都墨田区押上1丁目1番2号

東武鉄道株式会社 路線図



お客様に安心を 地域に新たな輝きを

1都4県に総営業キロ数463.3kmの鉄道路線と205の駅を有している。浅草を起点として埼玉県東部を通り、栃木県、群馬県、千葉県に広がる本線は、伊勢崎線、日光線、および野田線の三つの幹線とその支線からなり、池袋を起点とする東上線は埼玉県の中央を西北に伸びる。東武鉄道と東武鉄道指定の99社で構成される東武グループでは「お客様に安心を 地域に新たな輝きを」もたらす企業集団を目指し、住宅・流通・レジャー・交通の各分野で安全安心な商品・サービスの提供に取り組んでいる。



ただ、それだけではなく、昭和二年買収の伊香保軌道線(三十一年廃止)を表示したり、昭和四年十月一日に全通した日光線を予定線に入れ、バックグラウンドとしての一大観光地、日光東照宮や華嚴滝と中禅寺湖を立体絵画風に表現して楽しい。

この図絵にはないが、昭和十八年から十九年にかけては、戦中の「陸上交通事業調整法」により、周辺の小規模な下野電気鉄道・越生鉄道を買収し、また総武鉄道を合併、近鉄に次ぐ総延長路線になっていく、大東武の萌芽がみられるようだ。

ただし寄居・高崎間、上板橋・西新井間の路線構想は実現していない。浅草駅に始まる本線沿線には、西新井大師、牛島の藤、館林つつじ、田沼唐沢山、出流観音、足利文庫、太田の金龍寺、新田神社など。東上沿線には川越喜多院、吉見百穴、岩殿山、箭弓神社などを絵的に表現して、途中下車の誘惑に駆られそうなほどの巧みな案内図である。

気になるのは、東京にあった初三郎経営の大正名所図絵社は、関東大震災を契機に本拠地を犬山の日本ライン蘇江仮画室に移した大正十二年九月以降、会社名義を大瀧新之助に譲渡し、自らは観光社を興しているが関連社からの出版であることだ。

※藤本一美「東上沿線から見える山々」

(11枚の沿線車窓展望図入り 東上線開業75周年出版 東武鉄道株東上業務部営業課発行1989年9月) 参照。